

# 全身性エリテマトーデスに合併した左房粘液腫の1症例

河野 雄幸\* 木村 道生 松吉 哲二  
高橋 宏 穴井 堅能 立川 裕  
中村 正直 三浦 徹也 助広 俊吾

福岡大学医学部心臓血管外科教室, 健和会大手町病院心臓血管外科\*

**要約**：41歳女性, 全身性エリテマトーデス (以下 SLE) のステロイド療法中に断層心エコーにて左房粘液腫を指摘され, 摘出術を施行した症例を経験した.

SLE を合併した左房粘液腫は極めてまれであり, また SLE を合併した心疾患に対する開心術の報告も少ないので報告する.

左房粘液腫と診断されれば塞栓症や心不全となる前に手術を行うべきである. それに加えて左房粘液腫には発熱, 倦怠感, 血沈の亢進, グロブリンの上昇などの自己免疫疾患様の症候がある. これらの症候は, 粘液腫摘出により消失することから, 何らかの免疫学的な働きを示唆している. われわれが経験した左房粘液腫を合併した SLE では, 粘液腫の存在が SLE の増悪因子の1つであり粘液腫摘出術は意義があると考えられた.

**索引用語**：左房粘液腫, 全身性エリトマトーデス, ステロイド療法, 粘液腫摘出術

